

有様デアル、官業ニ携ルヤウナ人達ガ自分ノ生活ノ防衛ヲスル爲ニ此ノ爭議ヲ續行シテ居ルコトハ、洵ニ同情スベガ長ク續キマスルコトハ官業ノ必然的ナ能率ノ低下トモナルノデハナイカトキデアリ、一面ニ於テ當然デハナイカトサヘ我々ハ考ヘテ居ル、斯ウ云フ狀態フヤウナ状態デ行キマスコトハ、私ハ官業ノ現狀ニ鑑ミ洵ニ遺憾千萬ナコト又相當ナ數ノ人ガ而モ有能ナ人ガ其ノ爭議ノ爲ニ没頭シナケレバナラヌト云フヤウナ状態デ行キマスコトハ、私ハノ官業從事員ニ對スル所ノ給與ノ改善、七月ニャル改善デ果シテ政府ハ是デハナイカト思フ、ソコデ最後ニ私ハ御尋ネ申上ゲルノデアリマスガ、是等ノ官業從事員ニ對スル所ノ給與ノ改善、七月ニャル改善デ果シテ政府ハ是デ宜イノダト云フ確信ヲ持テルカ、サウシテ此ノコトニ依ツテ官業方面ニ於テ目下續行サレツ、アリマス所ノ勞働争議ガ相當ニ緩和サレルト云フ確信ヲ御持チデアルカ、更ニモウ一遍念ヲ押シマスガ、勤勞所得税ノ撤廢ノ御意思ガドウシテモナイノカ、此ノ點ニ付テノ第一ニ御伺ヒヲ申上ゲマス

第二ハ財産税ノ問題デアリマス、聞ク所ニ依リマスト財産税、殊ニ財産増加税ニ付キマシテハ、最初第一種、第二種ト、二種類ノ階級ヲ分ケマシテ、二重的ナ徵稅ヲスルト云フ形デアルヤウニ承ツテ居ツタノデアリマシタガ、最近ソレヲ撤廢シテ一本ニスルト云フヤウナコトガ傳ヘラレテ居ルノデアリマス、果シテドノヤウナ形デ一本ニスルト云フ御方針デアルカ、之ヲ御尋ネテ致シマス、同時ニ又殊ニ不動産ニ關スル財產稅徵收ノ場合ノ評價ヲ一體ドリマスガ、其ノ評價ノ基礎ヲ何處ニ置クガ、又基礎ニ依ツテドウ云フヤウナ

計算デ此ノ税ノ總額ヲ決定スルカト云
フコトト、更ニ財產税ヲ徵稅スル場合
ニ當リマシテ、政府ハ之對スル評價
委員會ト云フヤウナモノヲ作ルベキダ
ト私ハ思フノデアリマス、殊ニ此ノ委
員會ヲ作ル場合ニ、單ニ徵稅ヲサレル
側、即チ不動產等ヲ持ツテ居ル側ダ
ケノ中カラ委員ヲ選バズ致シマシテ、
其ノ財產ニ關係ノナニ一般勤勞大眾ノ
中カラモ委員ヲ選出スルヤウナ仕組ニ
スル必要ガアルト私ハ考ヘルノデアリ
マスガ、ソレニ對スル當局ノ御見解ハ
ドウ云フコトニナツテ居ルカ、ソレヲ
御尋不申上ゲルノデアリマス
ソレカラ此ノ際私ハ御願ヒヲ寧ロ申
上ゲタイ、一體今ノ日本ノ國稅ノ體系
ト云フモノハ、戰爭中ニ於テ非常ニ強
化サレ、非常戦前ヨリハ無理ナ形ヲ
執ツテ來テ居る面ガアルノデハナイカ
ト思ヒマス、其ノ説明ハ拔キマスガ、
此ノ際社會情勢、經濟情勢、一切ノ情
勢ガ變ツテ來タ時ニ當リマシテ、政府
ハ國稅ノ根本的改革ヲスベキ時ニ到來
シテ居ルノデヤナイカト私ハ考ヘルノ
デアリマスガ、ソレニ對スル政府ノ御
方針ガアルカドウカ、ソレモ御伺ヒ致
シマス、一遍ニ質問致シマスガ、更ニ
事業資金ノ再封鎖ノ事柄デアリマス
ガ、一體工場ト云フモノハ先達テモ申
シマシタ如ク一切銀行ノ融資ニ依ツテ
運營ラシテ行カナケレバナラナイ、隨
テ銀行ニ預金ガアツタリ、或ハ銀行ノ
窓口ト特殊ナ關係ガアツタリ、或ハ又
銀行ノ當事者カラ見テ儲カリサウナ事
業、サウ云フ方面ニナルト融資モサレ
バカリハ居ラナイ、其ノ場合ニ銀行カ
ラモ、唯時ノ算盤勘定、或ハ中ニハアル

ト思ヒマスガ、感情ダケノ金融ト云フ
ヤウナコトヲヤラレタノデハ、洵ニ私
ハ産業經濟再建ノ上カラ行キマシテモ
遺憾ナコトデアリ、工場ニ取リマシテ
ハ迷惑千萬ナ事柄ニモナルノヂヤナイ
カト思フノデアリマス、殊ニ銀行ト云
フモノハ言フマデモナク利息勘定、利
益本位ヲ事トシテ居ルモノニアリマス
カラ、自己資金ヲ預ケテ居ル工場ニ對
シテハ、其ノ自己資金ノ預金代ダケハ
色々ノ意味ニ於テ寧ロ資金ノ貸出ヲ抑
制スル、所ガ利息ハ餘計取ル譯ダト云
フコトデ、自己資金ヲ持ツタ勘定、或
ハ資金内ノ範囲ニ於テ、ドンヽ寧ロ
積極的ニ色々ナ便宜ヲ構ヘテ貸サウト
スル氣持ガ出テ來ルノデハナイカ、是
ハ銀行屋ガ營利本位ノ建前デアルカラ
テ、當然サウ云フ勘定ニナルノデハナ
イカト思フ、然ルニ一方サウデナイ方
面ニ於テハ大減大臣ハ中小企業等ニモ
相當積極的ニ貸出ヲスルト仰シャツテ
居リマスガ、中々實態ト云フモノハ
政府當局ノ考ヘテ居ルヤウナ譯ニ行カ
ナイノデハナイカト云フ大キイ心配ヲ
私ハ持ツテ居リマス、ソンナ關係デ若
シ國家ノ爲ニ必要ナ事業デアリ、ソレ
ヲ生産スルコトニ依ツテ大イニ日本ノ
經濟再建ノ爲ニ役立ツモノデアルト云
フコトニナシテ居リマシテモ、今言フ
ヤウナ銀行ノ建前上サウ云フ方面ニ事
業資金ガ廻ラナイト云ノコトニナリマ
スト、結局事業家ト云フモノハ運轉ガ
窮屈ニナルダケナライザ知ラズ、最後
ニハ其ノ工場ガ閉鎖サレル、或ハ倒壊
スル、ソレニ依ツテ失業者ハ續出ス
ル、斯ウ云フ考ヘ方ヲ持チマスト、今
後ノ單ナル銀行ノ窓口ノ人ノ考ヘ方如
何ニ依ツテ、昔ク日本ノ中小產業ト云
フモノハ生稻與寧ノ權ヲ銀行屋自身ガ

握ルト云フコトニナル、是ハ洵ニ危険千萬ナコトデアルト思フ、ソコデサウニ思ヒ切ツテ、政府ガ考ヘテ居ラル、通リノ貸出ガ出来ルヤウナ機構ヲ此際作ル必要ガアルノデハナイカ、斯様ニ私ハ思フノデアリマス、其ノ弊害ニ及ボス所、只今申上ゲマシタ如ク労働者ノ新タナル失業群ノ續出ニナルノデハナイカト云フ、心配ヲ持ツテ居リマス、工場自體ノ問題デハナクシテ、工場ニ労ク労働者ノ是ハ大キナ問題トシテ繫ツテ來ルノデハナイカ、其ノ爲ニ労働者ニハ今日ハ消費組合ガアル、其ノ組合ノ運動ノ及ボス所ハ銀行ノ窓口ニモ殺到スルト云フヤウナ事態ガ或ハルノデハナイカト云フ見透シヲ持ツテ居ル、ソコデ私ハ此ノ問題ニ對シテ當局ガドノヤウナ方法デサウ云フ事柄ニ付テ心配ヲスルノカ具體的ニツシノ際御示シヲ願ヒタ、ソレハ全國ニ普ク目下各地ニ作ラレテ居ル中小工場ハ一齊ニ當局ノ其ノ方針ニ付テハ注目ヲシ期待シテ居ル所デアリマス、同時ニソレハ工場主ダケデナク其處ニ労働者階級ガ相當今日注目ヲシ始メテ居ル譯アリマス、隨テ其ノ點ニ付キマシテモ明確ナ御見解ヲ御披瀝願ヒタイト思フノデアリマス

開キ及ブ所ニ依ルト、ソレハ保證人ヲ
必要トル、或ハ擔保ヲ必要トル、
必要トル、或ハ擔保ヲ必要トル、
擔保ヲ必要トル云フコトニ
擔保ガアル譯ハナイノアリマスガ、
假ニ保證人ヲ必要トルト云フコトニ
受取リマシテモ、保證人ヲ付ケルト云
フコトハ中々容易デナイ人ガ非常ニ多
イノデハナイカ、サウ云フ海外引揚同
胞ニ對シテ保證人ヲ付ケナケレバ生業
資金、援護資金ガ出ナイト云フコトデ
アレバ、眞ノ授護ノ形、サウシテ海外
同胞ノ引揚者ニ對シテ新シ職場ヲ見
付ケ出スコトニ協力スル建前ニハナラ
ナイデハナイカ、斯様ニ私ハ考ヘル、
ソコデ此ノ海外引揚同胞ニ對スル所ノ
今ノ金融方法、貸出ノ方法ハドノ程度
ニ決定シテ居リマスカ、御伺ヒ致シタ
イ

ヲ申上ゲル、成程今日庶民金庫ト云フノ
モノガアリマシテ一般ノ庶民者ニハ融
通ヲスルト言ツテ居リマスガ、此ノ庶
民金庫ト云フモノニ對シテハ今ノ勤勞
階級ノ立場カラ言ヒマスト、中々貸シ
テモ吳レナインシ、サウ云フ庶民金庫ニ
テ低利デ長イ期間ニ返セバ宜イト云フ
勤勞階級ハ餘り親シミヲ今日持ツテ居
リマセヌ、ソコデ思ヒ切ツテ國立デサ
ウ云フ方面ノ銀行ヲ作ラレテ、サウシ
テヤウナ方式デ、勤勞階級ノ生活ノ側面
的ナ援助ヲ思ヒ切ツテヤルヤウナコト
ガ必要デハナイカ、斯様ニ思フノデア
リマスガ、其ノ點ニ付テ御見解ヲ聽キ
タイト思ヒマズ

レニ百圓加ヘテ三百十圓ト云フノガ組合側ノ要求ト見テレルノデアリマス、之ニ對シテ六月カラ實行致シマシタ臨時ノ處置ハドウナツカト申シマスルト、本俸ハ變ラズニ四十圓、物價手當ガ五十圓、臨時手當ガ百八十圓、ゾレデ二百七十九圓デスガ、ソレニ賞ノ月割ガ三十圓デ、三百圓ト云フコトニ相成ツタ譯ニアリマス、ソレカラ七月カラ實行致サウトシテ今計算シ、恐ラク近イ中ニ實行致ス手管ニナルダラウト想像致シテ居リマスノハ、稍々根本的ニ給與ノ額ヲ變ヘマシテ、本俸ガ二百七十三圓、勤務地手當——是ハ名前ハ假稱デアリマスガ、ソレガ三十圓デ、三百三圓ニナル、斯ウ云フ譯デ、組合側ノ要求カラ見マスト七圓一寸違フノ勤續二十年位ノ人、扶養家族四人トシテ計算ヲ立テマスト、是ハ今マデノ給与デアリマスト、本俸ガ百十圓、是ハ六大都市デアリマス、ソレカラ勤續手當ガ三十五圓、物價手當ガ六十六圓、ソレカラ家族手當ガ八十圓、臨時手當ガ二百六十四圓、合計五百五十五圓、ソレカラ賞與ノ月額ガ九十八圓、更ニ合計致シマシテ六百五十三圓、組合側ノ要求ハ家族一人ニ付テ百圓ヲ其ノ外ニ支給セヨト云フノデアリマスカラ、ソレニ本人ヲ加ヘテ五人デアリマスカラ、五百圓加ハリ、大體千百五十三圓ニナル勘定デアリマス、之ニ對シテ六月ノ臨時ノ手當ニ依リマシテ、本俸ハ變リマセヌデ百十圓、ソレカラ勤續手當、是ガヤハリ變ラズニ三十五圓、物價手當ガ六十六圓、是モ變リマセヌ、

ソレカラ家族手當ガ八十圓モ變リマセ
ヌ、唯臨時手當ガ五百五十四圓ニナ
リ、其ノ小計ガ八百四十五圓、賞與ノ
月額ガ九十八圓、合計九百四十三圓ニ
ナリマス、更ニ七月カラノ改革ニ依リ
マスト、本俸ガ七百一圓、家族手當ガ
四百圓、其ノ他ノ手當ガ六十圓、合計
千百六十一圓デアリマスカラ、此ノ四
人家族ノ者ニナリマスト、七月カラノ
計算デハ組合カラノ話ヨリモ少シ高ク
ナル、斯ウ云フ譯デ、是ハ實ハ組合側
カラノ要求ハ家族ニ付テ百圓ヅツ與ヘ
ロ、斯ウ云フコトデアリマシタガ、ド
ウモソレデスト可ナリ不合理點ガア
リマスノデ、實ハ私共ガ其ノ計算ニ依
シテ政府ノ増加シマス金額ヲ全部計算
シテ見タ、サウシテ其ノ金額ニ當ルモ
ノヲ本俸ヲ變ヘル、斯ウ云フ前記デ以
テ上ニ比較的輕ク、下ニ厚クト云フ意
味デヤリマシタカラ、一人々々ノ場合
ヲ計算シマスト、只今申上ゲマシタヤ
ウニ厚薄ガ要求ヨリ少シ違ツテ來マス
ケレドモ、先づ大體満足ノ行ク所ヘ行
クノザヤナイカ、斯ウ云フ風ニ考へテ
居リマス、此ノ後ハ此ノ間モ申上ゲマ
シタヤウニ——是ハ兔ニ角七月カラヤ
リマスガ、今後ノ問題ハ更ニモツト根
本的ニ研究致シマシテ、給與全體ノ考
へ方モ改メテ行キタイ、斯ウ云フコト
デアリマスカラ御諒承願ヒタイ、ドウ
ゾーツスウ云フコトデ、川島君ノ御盡
力デ爭議ガ早ク片附クヤウニ御願ヒ致
シマス

上デ最モ伸張性ノ多イモノニアリマス、是ハ財政ガ困難ニナレバ税率ヲ上ゲル、ソレカラ財政ガ樂ニナルニ從ツテ税率ヲ下ゲル、年々歳々上ダリ下ゲタリスルコトモ出来ルト云フモノデアリマシテ、是ハ或ハ私ノ租税觀念ガ間違シテ居ルカモ知レマセヌガ、私ハ現狀ニ於テハドウシテモヤラナケレバナラヌ税率ダト考ヘテ居リマス、唯今日ハオヒ互ニ生活ガ困難ナ所ヘ財政モ困難デアリマスカラ、比較的能率ガ高イト云フ所ニ懶ミガアリマスケレドモ、是ハ難テ財政ノ整理等ガ行ハレ、バ稅ガ下ダゲラレルコトニナルノデアリマス、サウシテ此ノ分類所得稅ヲ課ズルトシマスト、大所得者ダケデハイケナイノデアリマシテ、ヤハリ出來ルダケ輕イ稅デ全國民ニ拂ツテ戴クト云フコトニ致シタインデアリマス、是ハ後デ政府委員カラ申上ゲテモ宜シイノデアリマスガ、一體日本ノ所得稅ノ納付者ト云フモノハ外國ニ比較シテ少ナ過ギル、モツト～數方多クナラナケレバナラナイト考ヘテ居リマス、サウ云フ譯テ少クトモ現狀ニ於キマシテハ御詫ノヤウニ勤勞所得稅ヲ止メル譯ニハ行キマセヌ、財政上ノ關係カラモ行キマヌ、其ノ點モ一ツ御詫承願ヒタイト思ヒマス

税デハゴザイマセヌ、アレハ所得稅ノ根本的改正ヲショウト云フ計畫デヤツタノデ、必ズシモ戰時ダカラ分類所得稅ヲヤツタ譯デハアリマセヌ、其ノ外ノ物品稅、行爲稅、サウ云フモノニハ戰時的ノ色々ナ申サバ惡稅ヲ課ケタ、斯ウ云フモノハ無論整理ヲ致シタインデ、本年度ニ於テモ或ル程度ノ整理ヲ致ス積リデアリマスガ、徹底のニハ參リマセヌノデ、是ハ改メテ一ツ政府モ研究シ、又必要アレバ然ルベキ委員會等モ設ケテ、稅制ニ付テハ十分ニ研究ヲ致シタイト考ヘ居リマスソレカラ事業資金ヲ原則トシテ新シイ貸出シニ依ルト云フコトガ少クトモ過渡的ニ或ル部面ニ不便ヲ與ヘテ居ナイカト云フコトハ、斷エズ私ノ心配シテ居ル所デアリマス、ソコデ左様ナコトハナイヤウニト常ニ申シテ居ルノデアリマスガ、若シモ中小工業等ニ於テ不便ヲ感ジテ居ルト云フ向ガアリマシタナラバ、其ノ實際ニ付テ御示シヲ願ヒマストソレハ手ヲ打タウト思ヒマス

云フコトハ私ノ希望デアリマス、銀行カラ見テ有利ナモノニダケ貸ス、是ハ銀行ノ判断ニ依ルモノデアリマシテ、大體銀行カラ見テ有利ナモノニ貸スト云フ判断デ私ハ宣シト思フ、ソコデ私ハ是ハ餘計ナコトデアリマスケレドモ、銀行國營ト云フコトニ疑問ヲ懷ク、幾ツカノ銀行ガアツテ、サウシテ甲ノ銀行ヲ不利ト見、乙ノ銀行ヲ有利ト見ル、斯ワ云フコトデ事業方助カル場合ガアル、私ハ幾度カ財界ノ恐慌ヲ見マシテ、其ノ結果實例ニ接シマシテ、單一ノ銀行ハ宜クナイト云フコトヲ痛感シタ次第アリマス、デアリマスガラ成ベク其ノ銀行ト普段事業者ガ接觸ヲ保ツテ、銀行ニ能ク内輪ガ分ルヤウニシテ置イテ下セラバ、私ハ其ノ事業ガ堅實ナ生産事業デアル限り、金融ニ詰ルコトハナイ筈、ダト考ヘテ居リマス、併シナガラソレデモ無論マダ救ヘナイモノニアリマス、現狀ニ於テハ今更ソンナ説教ヲシタ所ガ、銀行ト急ニ懲意ニナルコトハ出來ナイノデアリマスカラ、サウ云フモノニ對シテハ、今後近イ中ニ復興金融機關モ設ケマス、又復興金融機關ガ設ケラレナイ前モ、興業銀行或ハ勸業銀行等ニ於テサウ云フ國家ニ必要デアル堅實デアル中小工業ナドニ對スル、サウシテ普通ノ金融機關デハ關係ガナイ爲ニ金融ガ得ラレナイモノニ對シテハ興銀、勸銀等ニ依ツテ、是デ現狀ハ金融出來ル仕組ニナツテ居リマスシ、今後モ其ノ積りデ居リマス、ソレカラ尙ホ全體ノ資金計畫ト云フモノハ是ハ無論必要ナ譯デアリマシテ、ドンナ事業ニドレ程ノ資金ヲドウ云フ風ナ「ルート」ヲ通シテ供給スルカト云フヤウナコトハ、今マデモ

若干サウ云フ計警モアツタノデアリマス
スガ、更ニ今後ノ——今ハ非時ニ困難ナ
タナラバ、改メテ國家資金計画ト云ブ
ヤウナモノヲ十分立テ指導シテ行カ
ナケレバナラヌト思ツテ居リマス、ソ
レカラス様ニ金融ガ詰ツテ來ルト、由
小工業等ノ方カラ失業者ガ現ハレ、ソ
レガ廳テ大キナ勞働問題ニモナルト云
フ御説モ、御尤モトシテ拜聴スル譯デ
アリマス、之ニ對シテハ私共トシテハ
一方ニ於テハ事業ヲ整理シテ貰ハナケ
レバナラヌ、是ガ失業ヲ恐レテ、サウ
シテ今ノヤウニ御承知デアリマセウケ
レドモ、大キナ會社等ニ於テモ終戦後
ノ借金ト云フモノハ非常ナモノデアリマ
シテ、補償問題トカ色々アリマスケ
レドモ、今日ノ有様デハ補償問題ドコ
ロデハナイ、モットソレ以上ニ現状ガエ
字デ以テサウシテ借金ガ殻エテ行キ、
是デ事業家ガ參ツテシマフ現狀デアリ
マスカラ、是ハドウシテモ早ク整理ヲ
シナイト事業ハ立直レナイ、隨テサウ
ナルト失業者ガ現ハレルト云フコトモ
甚ダ困ツタコトデアリマスケレドモ、
覺悟シナケレバナラヌノデアリマス、
隨テ此ノ失業者ノ受入態勢ヲ國家トシ
テ強力ニ作ツテ行クコトガ必要デアリマ
ス、近ク提出シマス改定預算ノ中ニ
モ其ノ費用ガ盛ツテアリマス、又昨日
算ナキヤウニシテ参りタイト申合ツテ
居ル次第アリマス

コトニシテ欲シイト申上デテ居ル譯デ
アリマス、尙ホソレ以外ニ政府トシテ
モ庶民金庫ニ出来レバ若干ノ補償ヲシ
テ、サウシテ餘リ嚴格ナ度ニ生
業資金モ出シタイト思ツテ居リマス、
是ハ實ハ政府ガサウ考ヘテ居ルダケ
デ、色々ナツケ居リマスガ、マダ其ノ
實現ノ時期ニ至ラナイデ甚ダ殘念デア
リマス、尙ホ私共ハ諦メズニ、其ノコ
トヲヤラウト考ヘテ居ル次第デアリマ
ス

百萬人ノ者ノ中カラ四百八十萬人ノ
所得稅納稅者ガゴザイマス大體三割デ
ゴザイマス、「アメリカ」ハ一億三千八
百萬人中大體五千萬人ノ所得稅納稅者
ガアルノデアリマス、三割六分ニ相當致
シテ居リマス、我ガ國ハ國民所得ノ狀況、
國富ノ點ガ變ツテ居リマスルカラ、一
律ニ此ノ納稅割合ヲ求メルコトハ出來
マセヌケレドモ、大體少クトモ一割
五、六分程度ノ納稅人員ガアツテ、初
メテ所得稅ガ租稅ノ中心デアリ、又國
民ノ國民稅デアル意味ヲ發揮出來ルノ
デハナイカト思フノデアリマス、然ラ
バ勤勞所得者ハ他ノ事業所得者トドウ
云ノ風ナ負擔關係ニナツテ居ルカ、五
千圓ノ勤勞所得者、妻及ビ子三人、卽
チ扶養家族ガ四人アリマシタ場合ハ、
年額五千圓ノ所得者ハ百八十圓ノ所得
稅デゴザイマス、之ヲ農業所得者ニ見
マスト、五千圓ノ農業所得者ハ五百三
十五圓ノ地租ヲ加ヘマスト、五千圓ノ所
得者ハ九百十圓ノ課稅ニナリマス、又
之ヲ不動產所得デ申上ゲマスト、不動
產所得五千圓ノ人ハ所得稅ダケデ八百
六十二圓、地租ヲ加ヘマスト一千四十九
圓、同ジ五千圓ノ所得者デ勤勞階級ト
事業者階級ト資產階級トハ斯様ニ負擔
稅額ガ違ツテ參ルノデゴザイマス、隨
テ私ハ此ノ程度ノ差ガアレバ勤勞所得
者ニハ物價高デオ氣ノ毒デハゴザイマ
スカ、此ノ際負擔ヲシテ戴クノガ適當
デハナイカト云フ私見ヲ持ツテ居ルノ
デゴザイマス

○川島委員 只今ノ御説明ハ大變御功
妙ナ説明デアリマシテ、是レ以上私ガ
御質問申上ダタイ所ハアルノデスガ、
向シテ努力ヲ進メテ居ル次第デアリマ
係、又財界ノ整理ニ付テドウ云フ風ナ
手ガ打タレルカ、斯ウ云フ問題ト絡ミ
マシテ、只今ノ所ドチラトモ決マツテ
居リマセヌ、唯關係方面ノ意見ガアリ
マスノデ、二段構へ一段構ニナル
ノデハナイカト云フ風ナ方向ニ向ツテ
研究ヲ續ケテ居リマス、不動産ノ増加
ニ付キマシテ如何ニスルカ、是ハ財產
稅ノ中心問題デゴザイマス、不動産ニ
付キマシテモ、土地ノ評價、家屋ノ評
價、各々特殊ノ事情ガゴザイマシテ、
中々困難デゴザイマス、勿論原則ト致
シマシテハ、法定ノ賃貸價格ノ倍數ニ
依ツテ決メタイト思ヒマスガ、其ノ倍
數ハ全國各地種々差ツタ倍數ヲ設ケナ
ケレバ適當ナ評價ハ出來ナイト思ヒマ
ス、又倍數ニ依ルニ致シマシテモ、御
承知ノ通り農地調整法ノ價格ト云フモ
ノトヤハリ考ヘ合セラ致サナケレバナ
リマセヌ、非常ナ厄介ナ問題デアリマ
スノデ、此ノ評價ニ關シマスル根本對
策ハ、大藏省ニ相當廣範國ノ委員ヨリ
成ル委員會ヲ決メテ行ク、又地方ノ事
情ニ依リマシテハ、各財務局ニ不動產
評價委員會ヲ設立致シマシテ、是レ亦
民間各方面ノ方々ノ御意見ヲ聞イテ評
價ニ當ツテ行キタイト思ツテ居ルノデ
アリマス、徵收ニ當ル評價委員ヲ各方
面ヨリ選ベト云フ御意見デアリマス
ガ、洵ニ専尤モデ、我々モ此ノ方向ニ
向シテ努力ヲ進メテ居ル次第デアリマ

他ノ方モ居リマスノデ、洵ニ全面的ニ
満足スル程ノ御答辯ハ得ラレナカツタ
コトヲ遺憾ニ存ジマスガ、私ノ實間ハ
是デ打切りタイト思ヒマス
○竹田委員長 金子君
○金子委員 此ノ間大臣ニ御願ヒンテ
置イタノアリマスケレドモ、資金再
封鎖ニ依ツテ中小工業者ガ非常ニ行詰
リ、生ジテ居ル、中ニモ駐軍關係、
或ハ食糧増産、或ハ復興事業ニ対シマ
シテノ行詰リガ相當アルノデアリマ
ス、之ヲ打開スル爲ニ、一ツ貸出金ノ
中ノ何割カヲ現金デ貸出シテ戴キタイ
斯ウ云フ御願ヒラシテ置イタハアリ
マスルガ、是ハ其ノ後私地方ニ歸リマ
シテ中小工業者ト御會ヒシタノデアリ
マスケレドモ、サウ云フ場合ニモ是ガ
要望サレテ居リマス、是ハ實際ノ所ラ
言ヒマスト生産者、事業者バカリデハ
アリマセヌ、其ノ事業者ト一體ニナツ
テ極イテ居ル勞働組合ノ方々モ、若吉
ウ云フコトヲ要望サレテ居ルノデアリ
マス、私ハ大臣ハ酸イモ辛イモ能ク
易ク、而モドレ位能率ガウント渠ルカ
モ知レナイ、是非ヤツテ戴キタイ、斯
ウ云フコトヲ要望サレテ居ルノデアリ
マス、私ハ大臣ハ酸イモ辛イモ能ク
存ジノコトト思ヒマスカラ細カイコト
ハ決シテ申シマセヌ、唯事業主モ從業
員モ共ニ持ツテ居ル所ノ生活上ノ本
能、又人間ノ本能ヲ十二分ニ活用出來
ルヤウニ、斯ウシタ現實的ナ政策ヲ
チマ行ツテ戴キタイノデス、サウスル
コトニ依ツテ、通貨ノ面カラ來ル「イ
ンフレーション」ヲ生產ノ飛躍的増
産増強ニ依ツテ必ズ政府ニ御應ヘシ
テ見セル、斯ウ云フ意氣込ミヲ現實ニ

持ツテ居ルノアリマス、デアリマスカラ、此ノ問題ダケハ大臣ハ一ツ大脛ニ早急ニ、貸出ノ場合何割カヲ現金デスノシテ戴クヤウニ金融機關ヲ通じテ實行サセテ戴キタインデアリマス、是ハ實際ノ所早急ニ御願ヒシタイト思ヒマス、勿論封鎖ノ問題ナシカト云フモハ、過日大臣ノ御答辯ニアリマシタヤウニ、財產稅ノ徵收後ニ於テ全面的ニ、或ハ又全面的デナクトモ解除スルト申シテ居リマスケレドモ、事業主又從業員ト云フモノハ現在直チニ其ノ問題ニ打突カッテ居ルノデアリマスカラ、ドウカ此ノ問題ダケハ是非トモ實現出來ルヤウニ御願ヒシテ置キマス、サウスルゴトニ依ツテ全國ノ中小工業者、又労働組合ノ方々ガ、勇ミ立ツテ政府ノ御期待ニ反シナイ生産ノ増強ニ邁進スルコトガ出來マスカラ、此ノ點一ツ御願ヒワシテ置キタインデアリマス

○石橋國務大臣　最初の方ノ貸出ノ何時債務ノ棚上げト云フ御承知ノ通り其ノ債務者ガドウ云ふ性質デアルカ、ヤハリ債務者ノ方デモ整理ヲ何トカシテ戴カナイト、恐ラク棚上げトカ整理トカ民間ノ企業ノ債務ヲ國家ガ棚上げマスト、五十人、百人ノ從業員ヲ使ツテ爾イテ貰ツテ居ツタ所ノ工場ガ疎開マス、尙く能ク研究サセテ戴キマス。○金子委員　例へば實際ノ實情ヲ申シマスト、五十人、百人ノ從業員ヲ使ツタ所ノ中小工業者ハ一生懸命ニナツチ疎開ノシタノアリマス、家々壊シ又家ヲ譲り、其ノ場合ニ、御承知ノ通り其ノ場合ニ御承知ノ通り其ノ間仕事ヲ休ンデ、金ハ入ラナイガ、其ノ給料ヤ又ハ疎開ノ費用ト云モノハテ、機械ヲ運ビ、三箇月間ハ休ンデ、一生懸命ヤツタ、其ノ間仕事ヲ休ンデ、居リマスノデ、金ハ入ラナイガ、其ノ給料ヤ又ハ疎開ノ費用ト云モノハテ、銀行カラ借りテヤツテ居ル、ソレガモ非常ニ小サイ工場ト雖モ大キイ金額ニ上ツテ居リマシテ、現在モ残ツテ居ル、併シ其ノ借合ヲ背負ヒナガラモセ、産増強ノ爲ニ起上ツテ一生懸命ヤツテ居ル、ヨコヘ今申シマシタヤウニ資金ノ再封鎖ニ依ツテ、貸出シヲ受ケルト又利息ヲ拂フ、以前ノ國家ニ協力スル爲メノ疎開ニ依ツテ蒙ツタ大キナ損害ヲ、此ノ點ハ是非トモ御考慮願ヒタル、此ノ點ハ是非トモ御考慮願ヒタル、ソ利息ヲ拂ハナケレバナラヌ、是ハシテ、何等かノ方法ニ依ツテヤツテ戴ケレバ、中小工業者ヲ今日又將來育成

シテ行^フ上ニ於テ大キナ力ニナルデハ
ナイカト信ジテ居リマスノデ、申上ゲ
テ居ルノデアリマス、此ノ點モ御留意
ナサツテ、今日ノ中小工業者ヲ育成充
實セシムル方法ヲ執ツテ戴^カタイト思
ツテ御願ヒスル譯デアリマス
序デニモウツ御伺ヒシテ置キタイ
コトハ、皇室財産ガ今十五億餘デアリ
マスカ、是ガ凍結サレテ居ルト云ノ話
デアリマスガ、此ノ凍結サレテ居ル皇
室財産ノ中、何割ガ世襲財産トシテ御
残リニナリ、何割ガ國家ノ收入トナツ
テ來ル財産ニナルノテゴザイマセウ
カ、其ノ割合ト云フモノハドノ位ノ割
合ニナツテ居ルカ、若シ大體ノ豫想ガ
付キマスナラバ伺ツテ置キタイト考ヘ
テ居リマス

○石橋國務大臣 皇室財産ノコトハ今
マダ分リマセヌ、マダ決ツテ居ナイサ
ウデアリマス

○金子委員 今決ツテ居ラナクテモ、
是ハ當然近イ中ニ御決マリニナルメラ
ウド思ツテ居リマス、其ノ點ニ付キマ
シテ私共ハ大臣ニ一ツ御留意ナサツテ
戴キタゴトハ、今日一番氣ノ毒ナ方
ハ、此ノ戦爭ニ依ツテ一家ノ御主人又
其ノ收入ニ依ツテ食ペテ居ツダ所ノ息
子、サウシタ人ガ戦死ヲサレマシテ、
全ク生計ノ道ヲ失ツタ遺族ノ方ニア
リマス、同時ニ其ノ遺族デアリガ
ラ戦災者ノ方々、更ニ又戦災者ニシテ
復員者——復員ヲシテ來タガ、家^ハ燒
カレテ居ル、ト云フ方デアリマス、私
ノ所ニ手紙ガ澤山來テ居ルノデアリマ
スルケレドモ、モウ切々タル懇^ハヲシ
テ居リマス、斯^ハシタ一家ノ主人ヲ失
ツテ路頭ニ迷ツテ居ル方々、又復員
者ニシテ戦災者ノ方々、斯^ハシタ人達
ガ今ドンナ状態ニナツテ居ルカト申シ

マスト、實例ヲ申シマスト、是ハ所ト
名前ハ申上ゲマセヌケレドモ、私或ル
地方ノ警察署ニ行キマシタ、其ノ時ニ
食糧ニ關スル犯罪ノ點ヲ御聽キニ上ツ
タノデアリマスケレドモ、アノ地方
ニ於キマシテハ、食糧ニ關スル犯罪ノ
五割五分ト云フモノハ、逍家族ノ人ト
復員軍人ニシテ而モ災火ヲ受ケタ者ニ
依ツテ占メラレテ居リマス、食ヘナク
復員軍人ニシテ而モ災火ヲ受ケタ者ニ
テ人様ノ物ニ手ヲ置ケル、而モ其ノ署
長ガ實際調べテ見ルナレバ、オ氣ノ毒
デ堪ラナイケレドモ、出來タコトニ對
シマシテハ手ヲ着ケナイ譯ニハ行カナ
テヤラナケレバ氣ノ毒デアルト云フコ
トヲ、警察署長ガ申シテ居ルノデアリ
シテ居ル、併シ之ニ對シテハ、實際ノ
所、政府ハモットト、何トカ手ヲ打ツ
イカラ、手ヲ着ケ、之ヲ檢事局ニ送附
テ行ケナイト云フヤウナ狀況ニ放ツテ
置ク、而モ手ヲ著ケナイモノハ、其ノ
ガ、人様ノ物ニ手ヲ著ケナケレバ生キ
未亡人ガ貞操ヲ喪ル、其ノ娘サンガ貞
操ヲ喪ラナケレバ、其ノ一家ノ生計ガ
成立ツテ行カナイト云フヤウナ狀況ニ
放ツテ置クコトハ、洵ニ政府トシテハ
無責任極ハマルモノデハナイカト考ヘ
テ居ルノデアリマス、而モサウシタ
陛下ノ爲メ、國ノ爲メト言ツテ、夫ヲ失
ヒ子供ヲ失ツタ者ガ路頭ニ迷ヒ、罪ヲ
犯シテ牢獄ニ繫ガレル、又自分ノ手ヲ賣
ラナケレバ食ベテ行カナイト云フヤ
ウナ狀態ニ放置スルヨコトガ、陛下ヲ御
恨ミシ、且ツ反政府的ナ憤激ナル行動ニ
出デル者ヲ多ク出シテ居ルノアリマ
ス、私ハ日本ノ國柄ト言ヒ、日本將來
國家ノ立場カラ考へマシテ、若シ皇室
ノ財産ガ世襲財產トシテ、或ル何割カ

ヲ陛下ノ方ニ御渡シニナリ、其ノ大部
分ガ國家ノ收入トナル、國家ノ財産ト
ナリマスナレバ、ソレヲ一刻モ早ク政
府ハ「マッカーサー」司令部ニ御願ヒシ
テ、其ノ凍結ヲ解イテ戴イテ、其ノ解
イテ戴イタ皇室財産ヲ以テ、此ノ支柱
ヲ失ツタ遺家族、戦災者、復員軍人ニ
シテ而モ戦災ヲ被クタ者ニ對シマシテ
シテ、急速ナル救濟ヲ講ズルコトガ、絶
對ニ私ハ必要デハナイカト考ヘテ居ル
ノデアリマス、ドウカ大臣ニ於カセラ
レマシテモ、此ノ世襲財産ニ残サレル
皇室財産、又國家ノ收入トナル皇室財
産ト云フモノガ判別致シマシタナレ
バ、直チニ「マッカーサー」司令部ニ此
ノ凍結ヲ解イテ戴クヤウニ御盡力ヲ願
ヒタイト思フノデアリマスガ、此ノ點
ニ對シマシテ大臣ノ御所見ヲ御伺ヒシ
タイト存ジマス

○金光委員 極メテ簡單ニ、隨テ抽象的ニ御尋不申上ガマス、經濟安定本部ガ仕事ヲ始メルマヂニハ、相當ノ時期ナアルヤウデアリマスガ、ソレマヂノ措置ニ付テ何カ御方針ガゴザイマセウカ、國民生活ノ安定、生產ノ増強ト云ニヤウナコトノ爲ノ施策ハ、今日ノ堪合特ニ急ガナケレバナラナイ、「スビード」が必要デアルト存ジマスノデ、御伺致シマス

次ニ大工業及ビ中小工業ニ對スル金融機關ヨリノ資金ノ融通ニ付テハ、最近特ニ窮屈ニナツタヤウニ聞及ブノデアリマスガ、此ノ點ニ付テ政府ハ極メテ短い期間、言換ヘレバ金融經濟ノ所謂根本問題ガ解決スルマデノ間、金融ヲ引緊メルト云フヤウナ御方針デアルカ、御聞カセ願ヒタイト存ジマス

○石橋國務大臣 經済安定本部ガ出來マセヌデモ、御話ノ國民生活ノ安定及ビ生產増強ニ付テハ、ドシニシテ居リマス、又会シテ其ノ方策ヲ進メテ居リマス、又会後モ左様ニ致ス積リデゴザイマス

第二ノ金融ノ問題デアリマスガ、最近金融ガ特ニ詰ツタト云フコトハ、是ハ御説ノ通りデアリマス、又私トシテモ或ル程度詰メル必要ガアルト考ヘテ居ル譯デアリマス、併シナガラソレハ生產出来ルモノニ詰メル云フ意味デアリマセヌノデ、生產ガ巧ク行カズニアルト云フ方面ノモノハ緊メタイト考ヘゲマスルガ、生產ニ眞ニ必要ナル晉ガ自然全般ニ金融ガ詰ルト云フ風ニ傳ヘラレルモノト考ヘマス、繰返シテ申上ゲマスルガ、生產ニ眞ニ必要ナル晉ガアルヤウデアリマスガ、ソレマヂノ堪合特ニ急ガナケレバナラナイ、「スビード」が必要デアルト存ジマスノデ、御伺致シマス

○片岡委員 私ノ聽キタイコトハ、士
體今前ノ方々カラ質問ガアリマシタナ
テ、一ツ二ツ御願ヒシタイト思ヒ
ス、金融業者ガ貸付ニ對シマシテ、モ
スレバ非常ナ特權ヲ與ヘラレタル如
キ風景ガ、銀行ノ窓口等デ見受ケラン
ルノデアリマス、又サウ云フコトヲ
際ニ聞及ンデ居リマスガ、中小工業者
ノ再建ニ當リマシテ最モ必要ナ金融整
理ガ、銀行ノ貸付係乃至ハ重役等ノ甚
廻リノ審議ニ依リマシテ、是ガ時々
ヘラレテ行クト云フコトハ、實際アリ
得ルコトダラウト思ヒマス、尙又其ノ
反面ニ於キマシテ忌ハシヤウナ事件
ガ發生シ得ブレナイトモ限ラナイノデア
リマス、曾テハ東京ノ某銀行ニ於キ一
シテ、實際ニアツ事事實ガアルノデア
リマス、之ニ對スル施策ガアリマスカ
否ヤ、尙又此ノ貸付ニ對シマシテ、銀
行ハ申上ゲルマデモナク營利會社ア
リマスカラ、之ヲ兎モ斯ウ言フ權利ハ
ナインデアリマスガ、今日ノ金融業者
トスレバ、國策會社ニ等シモノトヨ
テ居リマス、サウ云フ觀點カラ此ノ貸
付ノ審査ニ對シマシテ、民間團體カラ
或ル程度ノ審査會等ヲ作ツテ、相當ア
リ間團體カラ審査員ヲ出シテ、是ハ併
シテ宜イカ悪イカト云フヤウナ審査会
如實ニ決定スルヤウナ機關ヲ作ツテ都
ケルカ、戴ケマセヌカ、其ノ點ヲ御願
ヒシタイト存ジマス

ソレカラ貸付ニ對スル限度アリマ
ス、政府ハ此ノ中小工、別シテ生産經
門或ハ復興ニ對スル資金貸付ニ對シ
ス限度ニ對シテ、内規ガアリマシタナ
キヤ、若シクハソレハ銀行ノ意見ニ任
セルノデアリマスカ、ドウ云フ限度
貸付ケルカ、サウ云フコトニ對スル附
度ヲ命令シタコトアリマスカ否ヤロ

御伺ヒシタインデアリマス
ソレカラ特殊預金、封鎖預金、是ハ無論貸付ノ擔保ニナラヌトハ存ジテ居リマスガ、性質上ソレ等ヲ見返ニシテ、或ル程度ノ意味ヲ持タシテ、其ノ範圍内ニ於テ全額ノ貸付ガ願ヘルカ願ヘナイカ、是モ併セテ御伺ヒスル次第デアリマス
ソレカラ自己資本ノ封鎖サレタ預金ニ對スル金利ト、新タニ貸付ヲ受ケル所ノ金利ノ利潤、是ハ一度御伺ヒシタコトガアルカト思ヒマスガ、ハツキリシマセヌカラモウ一回改メテ御伺ヒシタイト思ヒマス、此ノ金利ノ利潤ノ差ハ如何様ナ處置ヲシテ平均ヲ取ルカト云フヤウナコトヲ繰返シテ御伺ヒシタイト思ヒマス、以上デアリマス
○石橋國務大臣　此ノ中ニハ政府委員カラ御答ヘシタ方ガ宜イト思フ點ガアリマスガ、先ツ私ガ申上ゲマス
金融業者ガ最近ノ状況ニ依ツテ、自分ガ特權ヲヘラレタ如キ態度ヲ執ルト云フコトハ人情ノ弱點デアリマステ、サウ云フコトモ實際アラウカト存ジマス、産業家ガ非常ニ強クテ金融業者ガ其ノ意思ニ支配サレル場合ト逆ノ場合ガ起ル、最近ノヤウニナリマスト、金融業者ノ方が支配スル態度ヲ執ルダラウト思ヒマス、併シ普通ノ銀行ナリマセヌ次第デ、眞ニ銀行家トシテナイノデアリマシテ、公益機關トシテノ誇りト義務トヲ持ツテ居ラナケレバアル、尙ホ私トシテモ十分銀行家トシテ誤リナイ態度ヲ執ルナウニ警告ヲ發スル次第アリマス
ソレカラ金融ニ付テ民間ノ審査機関ヲ設ケル意思ガナイカト云フ御尋不デ

アリマス、現在ノ民間ノ銀行等ニ對シ
テ其ノ貸出ヲ政府ノ機關、何等カノ機
關デアレはレト指圖スルヨコトハ如何カ
ト思ヒマスガ、近ク作リタイト考ヘテ居
リマス、サウ云フモノニハ民間ノ各方
面カラ集メラレタ委員會ヲ作リマシ
テ、其ノ審査ニ依ツテ資金ノ貸出ヲ査
定スルヤニ致シタイト考ヘテ居リマ
ス

ソレカラ最近ノ新資金ノ貸出ニ限度
ノ命令ガアツカドウカ、是ハ一般的
ニハゴザイマセヌガ、後デ政府委員会
ヲ擔保ニ取ルト云ヘバ無論差支ヘナイ
譯デアリマシテ、政府トシテ之ヲ擔保
ニ取レト云フコトハ只今ノ所言ツテ居
リマセヌ、後ハ政府委員カラ御答へ致
シマス

○江澤政府委員 只今ノ御質問ニ對シ
テ御答へ致シマス、貸付限度ノ問題デ
アリマスガ、是ハ個々ノモノニ付キマ
シテハ貸付限度ト云フモノハ決定シテ
居リマセヌ、現在ハ三月二十日現在ノ
貸付總額ヲ限度トシテ、不安不急ナ貸
出ハ中止致シマシテ、之ヲ緊要ナ方面
ニ向ケセセルト云フ程度ノ總額制限ハ
シテ居リマス、ソレモ此ノ六月二十一
日ノ措置以來ハ五%方擴張致シマシテ、
此ノ限度デ自由ニ貸出ヲヤラセル、更
ニ最モ緊要ナモノデ其ノ粹デハヤレナ
イモノニ付キマシテ、日本銀行ノ本
支店ヲ通ジテ相當大幅ニ貸出セセルト
云フ方途モ講ジテ、緊要ナル金融資金

ノ供給ニ付テハ何等支障ノナイヤウ
方途ヲ講ジテ居リマス
ソレカラモウ一ツ自分ガ預金ヲ持
テ居ツテ、而モ貸出ヲ仰グト云フ點
付テ利潤ヲドウスルカト云フ點デアリ
マシタガ、是ハ資金ノ回収ヲ圖ルトニ
目的カラ致シマスレバ、或ル程度
鞘ヲ設ケルノハ已ムヲ得ヌト思ヒ
ス、此ノ邊ハ餘り过大ナコトニナラ
ヤウニ指導シテ行キタイト思ヒマス
ガ、是ハ貸出ノ内容如何、貸付先ノ人
容如何ニ依ツテ決マルコトデアリマ
テ、一律ニドウスウト云フコトハ指
出来ナイコトデアラウト思ヒマス
○片岡委員 大藏省デハ金利政策ニ
シマシテ金利ヲ引上ゲルノデスカ引下
ゲルノデスカ、或ハ現状ノ儘デ置キ
スカ

○石橋國務大臣 金利ハ物價ト同様
ニ、現狀ニ於テハ實ハ日本ノ金利ノ
準ガ何處ニアルカト云フコトハ分ラ
イノデアリマス、是キ事實釣付ケノ倫
好ニナツテ居リマスガ、併シ私ノ考
デハ現狀ニ於テハ上ルベキモノ、上二
ナケレバナラヌ、引下ガルコトハ出
ナイ、ズツト先ノコトハ別デアリマ
ス、當分ノ間日本ノ金利ハ現在ヨリ
モット高クナル、斯ウ云フ風ニ思ツ
居リマス

○村上委員 簡單ニ御質問申上ゲ
ス、本會議ニ於キマシテモ、又此ノ委
員會ニ於キマシテモ、大藏大臣ハ度々
來ル限り速カニ此ノ封鎖ノ解除ヲ圖
タイト云フコトヲ話サレテ居リマヌ
ガ、洵ニ是ハ結構アリマス、併シ現
園ノ事情ガ中々之ヲ速カニ斷行スル、
云マコトニ至ツテ居ナインオハ、勿論既
性、インフレヲ恐レテ居ルカラ、ダメ

リ、是ハ言ヲ俟タナイノデアリマス
ガ、是ガ防止等トシテ財産税ヲ徵收ス
ル、其ノ財產税ヲ徵收シタ後解除ヲ
スル御考へガアリマスカドウカ、尙ホ
私ノ考へデハ、此ノ財產税ヲ取ソタ後
モ民間ノ所謂水膨レ式ナ金ヲ取上ゲル
コトガ必要デアリマスガ、此ノ上又財
產稅トカ何トカ云フコトニ名ヲ籍リ
テ、サウシテ再度取上ゲルヤウナコト
ガアリマシテハ、是ハ所謂基本人權ヲ
隸屬スルモノデハナイカト思ヒマス、
デアリマスカラ之ヲ合法的ニ取ラナク
テハイケナイ、合法的ニ取ルノニハ私
ノ考へデハ全國各地ノ國有林、或ハ差
支ヘナイ國有財產ヲ拂下ゲル、其ノ方
法ハ各地區ニ會社ヲ設ケル、サウシテ
資本家ノ獨占ニナラナイヤウニ一人當
リノ持株ノ最高、最低ヲ決メル、斯ウ
云フ風ニシテ全國的ニ吸收シタナラバ
物價高ノ今日デアリマスカラ、莫大ナ
金ガ吸收サレルノデハナイカ、斯ウシ
テ經濟ノ安定ヲ圖ツテ政府ガ速カニ流
通資金ヲ吸收シテシマフト云フヤウニ
シテ、安心サシテ貰ヒマセヌト、懷中
ニアル金以外、銀行ニ預ケタノデハ危
ナイト云フヤウナ觀念ガ國民一般ニア
ルノデハナイカト思ツテ居リマスガ、
此ノ點ニ付キマシテ大臣ノ御考ヘヲ承
リタイ

セヨト云フ説ガアリマシタ、ソレカラ
國有林ノ問題ヲ御説ノ如クニ、ドナタ
カカラモ承リマシタ、此ノ點ハ唯資金所
ダケノ問題デナク、重大問題デアリマス
スカラ、殊ニ國有林ニナルト、今後
山林治水ニ關聯スル重大大問題デ、一
時的ナ問題デアリマセヌ、尙ホ十分研究
シテ戴キタイト現在言ウテ居ル所デ
アリマス

○竹田委員長 是ニテ質疑ハ全部終リ
マシタ、昨日直チニ討論ニ入り、採決
ヲ致スヤウニ御決定ヲ願ツタノデアリマ
スガ、社會黨ノ方カラ色々御協議ノ
都合モアツテ暫時休憩ヲ致シマシテ、
一時カラ討論採決入リタイ、斯ワ云フ
御申込デアリマスカラ左様ニ取計ラヒマ
ス、ソレデハ嚴格ニ一時ニ御集リヲ願
ヒタイト思ヒマス、是ニテ休憩致シマス
午前十一時五十一分休憩

午後一時二十五分開議

○竹田委員長 ソレデハ引續キ開會致
シマス、是ヨリ金融緊急措置令承諾ヲ
求ムル件、外十一件ニ付テ討論ニ入り
マス——細田君

○細田委員 今回提案サレマシタ金融
緊急措置令外十一件ノ法律案ニ付キマ
シテハ、連日委員會ニ於テ熱心ニ質疑
應答ガ繰返サレマシタガ、議論ハマダ
マダ盡キマセヌ、法令ノ緊急性ニ鑑ミ
マシテ、一先づ質疑ヲ打切ツテ採決ニ
入リタイコトヲ希望致シマスガ、唯妙
ニ飽クマデモ遺憾ノ意ヲ表シマスル所
ハ、成程關係方面トノ交渉ニ手間取り
マシタガ爲ニ、此ノ間ニ於テ預金ノ引
出、或ハ換物ガ猛烈ニ流行致シマシタ
結果、最も重要デアリマスル所ノ生産

謂惡性ノ「インフレ」方此ノ隙ニ乘ジマシタコトハ、是ハモウ隱レナイ事實デゴザイマス、一體從來ノ習慣ニ照シマシテモ、世界各國トモ經濟情勢程端倪スペカラザル微妙ナル動キヨナスモノハゴザイマセメ、過日ノ證券市場ヲ繞ツテノ新聞獲得ノ惡性手段ガ行ハレマシタ如キモノモ其ノ例ゴザイマスルガ、法ハ天則デナイ限り必ズ何處カニ拔ヶ道ガアルニ違ヒナイ、此ノ拔ヶ道ヲ狙ツテ惡性手段ガ講ゼラレルノデアリマスナラバ、爲政者ハ直チニレロ封ジルダケノ、第二ノ手ヲ拔打ニ之ヲ施行セバナラヌ、更ニ網ヲ潛る者がアレバ第三ノ手ヲ講ジル、軌道ニ乗セテ金融ヲ圓滑ニ運ビマスルニ付キマンテハ、數回ノ拔打モ決シテ厭フ所デハゴザイマセヌ、ソヨニ金融緊急措置令ノ緊急タル所以ガ存スルノデアリマシテ、デナケレバ緊急措置令ト云フコトハ、數回ノ拔打モ決シテ厭フ所デハゴザイマセヌ、人爲的ハ言ヒ得ナインゾゴザイマス、ノ法律ハドノヤウナコトヲ致シマシテモ絶対ニ完璧ト云フコトハアリ得ナイ、成程當今ハ關係方面トノ御交渉ニ付キマシテハ並々ナラヌ御若勞ノ存スルト云々コトハ重々御察シ申上ゲマスルガ、是レアルガ爲ニ名ゾソレニ藉リテ遷延ハ許レマセヌ、打ツベキ政治的ノ手ハ幾ラデモアリマヘ、此ノ邊本當ニ國家ノ現狀ニ思ヒタ致サレマシテ、サウシテ寧ロ巧遇デナクモ拙速可ナリ、此ノ方針デ此ノ非常處置ニ對處シテ貰ヒタイト云フコトガ本員ノ切ニ念願スル所デゴザイマス、大藏大臣ハ民間時代カラ聞エタ練達ノ士デアリマス、從來ノ財閥トカ官僚ノ型ヲ破ツテ新手ヲ打ツテ貰ヒタイト云フコトハ國民全體ガ之ヲ期待致シテ居ル、若シ是ガ平凡ナル所ノ財政政策ニ諸リマスナ

ラバ致テ石橋誠相ヲ謀セヌノアリマス、此ノ見地カラ致シマシテ大臣多年ノ造詣ヲ之ニ傾倒サレマスナラバ必ズヤ此ノ危急ノ場面ニ處シテノ打ツベキ手ガアルニ違ヒナイト私ハ確信シテ疑ハナイ、勇敢ニ而シテ迅速ニ此ノ法律ノ施行ヲ致サレシコトヲ私ハ切ニ希望致シマシテ、飽マデモ法ノ緊急性ト云フ所ニ希罷ヲ謀ギマシテ一應原案ノ懲罰成ノ意ヲ表シタトイ云フコトヲ茲ニ言明スルノデゴサイマス

○竹田委員長 白木君
○白木委員 私ハ此ノ際日本進歩黨ヲ代表致シマシテ、聊カ意見ヲ述べテ贊成述べマス、金融緊急措置令外十一件ガ緊急勅令トシテ公布サレタコトハ、當時ノ事情ニ於キマシテハ已ムヲ得ザルモノト致シマシテ之ヲ承認シ、總て原案ニ賛成ニスルモノデアリマス

○竹田委員長 河野君
○河野(寄)委員 私ハ日本社會黨ヲ代表致シマシテ、聊カ意見ヲ述べテ贊成ヲ致スモノデアリマス、只今議題トナリマシタノハ金融緊急措置令外十一件ガ緊急デゴザイマスガ、此ノ中ニハ種々ナルモノガ含マレ居ルノデアリマス、勅令第百五十九號ノ如キハ是ハ當然改定豫算ノ一部ヲナスベキモノデアルト私ハ考ヘルノデアリマス、儲テ是等ノモノ正案デアリマス、勅令第百二十七號、ヲ括シテ茲ニ承認ラボメラレルト云フコトハ、勅令案トシテハ已ムヲ得ザルコトカモ知レマセヌガ、私ハ寧ロ是ハ豫算總會其ノ他ニ於テ、一應論議スベキ筋合ノモノダラウト存ズルノデアリマス、殊ニ此ノ金融緊急措置令ハ、是ハ單ニ、金融緊急措置令一ツトシテ提案ヲ致サレタノデハナクシテ

物資ニ關スル緊急措置、或ハ職務ト聯關係ヲ以テ提案ヲ致サレタノデアリマシテ、何レモ職務致シテ、ソニヨルノデアリマス、ソレヲ個々バラニ提案ナスシテ、金融ノ方ハ金融ノ方、或ハ食糧ノ方ハ食糧ノ方ト云フ風ニ承認ヲ求メラレルト云フ行キ方自身ニモ、私ハ甚だ遺憾ノ點ヲ感ズル者アリマス、ソレ得冒頭ニ申上ゲマシタヤウニ、是等ノモノハ總て政府ノ根本的ナ施策ニアリマス、豫算總會ノ如キ綜合的ナル委員會ニ於テ審議スベキ筋合ノモノト私ハ存ズル次第デアリマス、殊ニ今日改定豫算ハマダ提出ニ相成ツテ居リマセヌ、何時出ルカモマダ承ツテ居ラナイノデアリマス、改定豫算其ノ他ニ付テ之ヲ見タ上デ、我々ハ「インフレーション」ノ問題ナリ從來ノ政府ノ施策ナリニ付テ、十分論議ツタヤダイト云フ意見ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、是デ卒然トシテ其ノ一環ヲナスモノダケノ承認ヲ求メラレルト云フコトハ、聊カ政府ノ謀略ニ引稚ツタヤウナ感ジガ致スノデアリマスケレドモ、私達ハ決シテ之ニ賛意ヲ表シタクアラト言ツテ、政府ノ施策其ノモノニ對スル將來ノ検討ノ意思ヲ放棄スルモノデハナイト云フコトダケハ申述べテ置キタイト思ヒマス、中心ノ問題デアリマス、金融緊急措置令ニ致シマシテモ、本委員會ニ於テ種々議論アリマシタヤウニ、何ト申シマシテモ議論ハ預金アリト云フヤウナ三本建ノ行キ方澤山アルノデアリマス、現ニ手續上ノ點カラ申シマシテモ、凍結サレタ封鎖資金アリ、新聞

ガ今日ニ於テドウダラウカト云フコトハ、私ガ中上ゲルマデモナク、大藏大臣能ク御存ジノコトデアラウト存ズル。ノデアリマス、願ハクハ此ノ緊急ナル措置デアリマスカラ、政府モ勇猛果斷ニ緊急ノ精神ニ則シテ決スベキモノハ決シ、解決スベキモノハ解決シテ、日本ノ財政經濟ノ再建ノ一步ヲ速カニ踏出サレントコトヲ私ハ希望シテ已マナインデアリマス、私ノ政策致シマンシハ、此ノ案ニ付キマシテ三ツノ希望意見ヲ附シテ賛成シタモアリマス。

一、生産增强ノ爲ノ事業資金、特に小工業、生産費等ニ對スル資金融通ニ付アハ格段ノ留意ヲナスベキコト。

一、個人生活資金ノ限度ニ付テハ物價高騰ノ現狀ニ鑑ミ、新タル構想ヲナスベキコト。

一、「インフレ」防止ニ付アハ金融面ニ於ケル施策ト共ニ、食糧其ノ他ノ給合施策ヲ強力ニ推進スベキコト。

以上三ツノ希望意見ヲ附シマシテ、只今議題トナリマシタ各案ニ對シテ賛成ヲ致スモノデアリマス。

○竹田委員長 東君

○東委員 私ハ原案ヲ承認スルモノデアリマスガ、ソレニ付ア三ツ程運営上御留意フ願ヒタイコトガアルノデアリマス、ソレハ第一番ニ金融措置令ノ關係デアリマスガ、戰災者、復員者ナニヤウニ、ソレカラ國ノ助成ガアルモノモ封鎖拂ヒニサレアハ大變ナコトニナリマスカラ御留意フ願ヒヤソレカラ第二點ハ中小産者ノ協同組

織、サウ云フモノヲ通シテ物ヲ販賣ジ
テ居リマス、所謂農業會ノヤウナ場合ニ
於ケル販賣物ノ代金ノ支拂フ封鎖ス
ルノハ、却テ閻資ヲ助長シタリ何カズ
ル譯デアリマス、ソレデサウ云フモノ
ハ封鎖拂ヒニシナイデ自由拂ヒニスル
方ガ却テ貯金ガ殖エテ行ク譯デアリマ
スカラ、サウ云フヤウナモノニ對シテ
十分御考ヘラ願ヒタイト思ヒマス、封
鎖拂ヒテナク自由拂ヒニスル方ガ宜イ
ノデハナイカ、殊ニ一年一回シカ收入ス
ガナイ、生産ガナイト云フモノニ付テハ
ハ、特ニ考ヘナケレバナラヌノデハナ
イカト思フ譯デアリマス

ソレカラ又モウツハ系統組織デアリ
マス、都道府縣ノ農業會ノヤウナ場合ニ
ニ、新規ノ事業資金、サウ云フヤウナチ
ノハ實際ニ於テハ貸出ガ自由ニナツシ
組織デアリマス協同組合關係ノ仕事ガ
居ルノデアリマスガ、事實ハ制限ヲ設
ケテ居ル譯デアリマス、現在現實ニ御
考ヘラ願ヒタイ、斯ワ云フ三點ヲ申ト
ゲマシテ原案ニ賛成致シタイト思ヒマ
ス

○竹田委員長 若林君

○若林委員 只今議題ニナツテ居リマ
スル件ニ關シマシテハ、無所屬俱樂部
ノ意見ト致シマシテハ、今マデ論議書
サレマシタコトヲ十分ニ御勘考ノ中ニ入
レテ戴イテ、將來ノ施策ニ誤リナイヤ
ウニサレンコトヲ希望致シマシテ、全
面的ニ智意ヲ表シタイト思ヒマス

○竹田委員長 伊藤君

上、生活上ノ事情ガ非常ニ變動シタ今日ニ於キマシテハ、此處デ盛ンニ論議セラレマシタ要望ヲ考慮セラレテ、封鎖支拂ノ點、特殊預金ノ點、生活費ノ緩和等、何レモ生産意欲昂揚ノ爲ノ事業資金ノ融通ニ付キマシテハ、一日モ早ク梓ヲ緩和シテ戴キタイト云フコトヲ希望致シマシテ、承認スルモノデアリマス

○竹田委員長 討論ハ終結致シマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、各案ヲ一括致シマシテ、本案ヲ承諾スルニ御賛成ノ諸君ハ起立ヲ願ヒマス

午後一時四十二分散會

〔總員起立〕